

第4回 新泉・和泉地区小中一貫教育校設置協議会会議録（要旨）

会 議 名	第4回新泉・和泉地区小中一貫教育校設置協議会
日 時	平成22年12月9日（木）午後2時30分～4時30分
場 所	和泉小学校 家庭科室
出 席 者	26名
次 第	1 小中一貫教育校の教育内容にかかわる基本的な考え方について 2 設計事業者の選定について 3 その他

会長	これから第4回新泉・和泉地区小中一貫教育校設置協議会を開催します。
教育改革推進課長	<p>それでは本日の予定ですが、「新泉・和泉地区小中一貫教育校の教育内容にかかわる基本的な考え方(案)」の4番目の重点についてご議論をお願いします。今後この基本的な考え方に基づいて、基本設計、建設の設計などに生かしていきたいと考えておりますので、どのような学校にしていきたいか、皆様が持っていらっしゃる意見または夢・プランといったものをお話しいただければと思っております。</p> <p>前回の協議会では、この基本的な考え方の1から3についてご理解いただいたところですが、引き続き本日もご意見があればお願いいたします。本日もご議論いただいたものを踏まえて、この教育内容にかかわる基本的な考え方について決定していきたいと考えております。</p>
会長	<p>それでは、「小中一貫教育校の教育内容にかかわる基本的な考え方(案)」の4の重点について、改めて説明をさせていただきます。</p> <p><資料について説明></p> <p>それでは、この一貫校の基本的な考え方、重点についてご意見、ご質問等がございましたらお願いします。</p>
委員	<p>現段階でも、小学校と中学校と少しずつですがいろいろと連携をとっていますが、小学生が中学生と一緒に縦割り班でお弁当を食べても、その日に初めて会う人も多いので、場の雰囲気がシーンとしていたと聞きました。まだまだ慣れないところがあるらしく、ぜひとも開校するまでにより一層この部分を強化していただきたいと思います。</p> <p>小学生の子どもたちは、高学年になりますと中学校にお邪魔することが多々あるようですが、低学年にはないことです。例えば、2校にまたがっているのが難しいのかもしれませんが、中学生から小学校へ出向いて、何かの授業を一緒になってやっていただくなど、検討していただければと思っています。</p>
会長	<p>実現できるところはやっていきたいと思えます。今回のお弁当給食が第一歩で、より広げていきたいと考えています。</p> <p>具体的にもっとこういうことをやってほしいということはあるですか。</p>
委員	<p>やはりもっと子どもたちがかかわる機会が多くなればいいと思えます。特に新泉小は遠いので、中学校から小学校へ出向くというのはいい考えだと思いました。</p>
委員	<p>枠組みはこれで結構ですが、これを進めるに当たっていいアイデアが今回の協議会が開催される1カ月間にも出てくることがあると思えます。そのときに情報がきちんと先生方に伝わるように、皆さんが言いやすい環境ができていればいいと思えます。</p> <p>これに関しては文科省の出すようなこれからのあるべき子ども像が書い</p>

	<p>であるので、もちろん言うことはないですが、やはりこれは抽象論のような感じがします。皆さんが考えながらこうするといいいのではないかということをごんごん校長先生なり、PTA会長さんなりに、こういう会議に出していない方の意見も吸い上げてもらって、流れをよくするようにすればいいのではないかと思います。</p>
会長	<p>新泉・和泉地区の小中一貫教育校は、この4つはもちろんそうですが、その4つの中の具体的なことで、これだけは第一に、今までの伝統も含めて外してはいけない具体的なことは何かありますか。</p>
委員	<p>直接その教育目標という形になるかどうかはわかりませんが、100%になるかどうかはさておき、芝生になった場合に、子どもたちが自分たちの手で芝生を維持管理していく、自分たちの芝生を守るんだという意識を強く持てるような学校になればいいと思います。もちろん今までも、和泉小は授業の一環として、芝生にかかわることをしてきていますが、日常の中で子どもたちが授業とは関係なく、自分たちの芝生なんだという概念に基づいて、自分たちが育てていくんだというのが、小学生も中学生も一緒になって浸透していけばいいと思います。</p>
会長	<p>中学生が入ることで、力の部分だとか、知恵の部分はかなり違ってくる可能性がありますね。</p>
委員	<p>もちろんそれもありますし、逆に中学生が入ってくることによって、今までよりも芝生が傷みやすくなるというのも事実だと思います。だから、それを踏まえて、やはり自分たちで維持管理を徹底させていけば、相乗効果があるのではないかと思います。</p>
委員	<p>間近のイベントでは、児童会でもちつきがありましたが、和泉中からも生徒が来たり、大学生のボランティアが来たりして、世代を超えた交流はとても面白いものでした。普段なかなか接する機会がないので、こういう機会を増やしていくといいと思います。大人世代にとってもいい経験になりました。</p>
会長	<p>そうですね。地域の中で育つというのをやはり認識させていくこと、ふれあいが大事になりますね。</p>
委員	<p>文言は非常に整っているので逆に手を加えづらいというか、実際にどういう内容になっていくかという実行の部分が、多分特色が出てくるだろうと思いますので、3校の今までの伝統などを踏まえて新しいものができると思います。</p>
委員	<p>やはりこの地域の特徴は、学校に関心を持っている方が多いことです。新しく建つ学校ですが、地域にかかわっている方たちが自分たちの学校として考えてくれるような、今までも各学校で地域と連携したいろいろな行事やPTAの活動がありましたが、それをよりバージョンアップしたよう</p>

	<p>な形とか、いろいろなことができてくると思います。そういう地域の方が出入りしやすいような、設計的にということではなく、気持ち的に通いやすいものができる、地域の特徴がすごく生かされると思います。</p>
会長	<p>設計の部分でも、地域の人に対応しやすい、入りやすいというのは大事なことだと思います。</p>
委員	<p>設計の段階では、学校が身近に感じやすい、どんどんと地域の人に入っていただくような、本当に行きやすい学校、それを受け入れてくださる学校であってほしいと思います。</p> <p>重点の4点は、前回の校長先生のお話をもとにいろいろ細かい説明を加えていただいたことで、これでいいと思いましたが、(1)の小中一貫したカリキュラムによる学習指導の展開がちょっと手薄のような感じがします。</p> <p>この中身は学校側、先生方をお願いするしかありませんが、やはり小中一貫、杉並ではじめての学校ができるので、見本となるような、小中一貫にした成果が上がらなければ何にもなりません。一貫校になる前から、もう今からでも3校連携で、小中学校が一緒になったらこんなに学習指導が変わるんだ、というように、やはり日々の鍛錬や学習が大事だと思います。専門性のある先生方によりよく考えていただいてください。</p>
会長	<p>カリキュラムに関しては、これからもう少し研さんを深めていきます。今は大雑把な形でくくっているの、来年度に関しては、もっと教科に、国語なら国語、数学なら数学と踏み込んで、何を小中一貫でやっていくのかを考えていかなければいけないだろうと考えています。あとはおいてきぼりをつくらないようにすることですね。</p>
委員	<p>異年齢のふれあいだけでなく、学習面でもふれあっていい部分があると思います。年長者が下の人のお世話ができる体制もあるし、それは学校の授業外でもいろいろできると思いますので、地域支援本部がいろいろ協力させていただきたいと思います。</p>
委員	<p>今日検討するこの3と4は、文章にすればこういう形になるだろうと思いますが、最初にいただいた「小中一貫教育校設置計画」に基づいて、この中でスケジュールが22年度から27年度まであるわけです。第一は27年度以降の開校に向けて、どういう形のものを想定するかと同時に、23年の4月から各学校でどのようにするのか。その過程の23年度から26年度の教育内容や教育活動を検討して、そして27年度以降の開校した際を想定して9年間を見通すということでしょうが、やはりその間にはこのような理念がそれぞれ働いていくわけです。具体的なイメージをみんなの頭に植えつけてもらうためには、23年の4月には和泉小の何年生はどこでどういう形でどういう教師のもとに指導を受けるか、新泉小の子はど</p>

	<p>うするかということも決めていないと、児童も保護者も教員も非常に不安になると思います。その辺はどこをどう使ってどういう形ですか、このまま新泉は新泉、和泉は和泉と、でき上がるまでは今までの形で進むのか、変わるのか、その辺が全然見えてきません。</p>
会長	<p>改築に向けた計画のことですか。</p>
委員	<p>2通りの路線を走るわけです。27年度以降の小中一貫校を想定して考えていかなければならないのが1つです。そしてその過程の3～4年間、27年以降の目標に向かって軌道を合わせながら、現在の3つの学校が小中一貫で今までやったことをさらにレールの上を走らせなければならないわけです。その辺をもう少しお父さん、お母さん方にわかるように、また教員にもこうやって子どもたちが行くんだよということも示していただくと、非常にわかりやすいのではないかと思います。</p>
会長	<p>今のお話だと2面あると思います。1つは、教育内容に関しては3校で研究をしています。それを一步深めて、来年は各教科の連続性を考えたカリキュラムについて検討していく。それと新泉小に出かけていくというお話もありましたので、中学校でどんなことができるのか。より深めるためにどんなことができるのかを考えていかななくてはいけません。それを具体的にどう計画していくのかは、今後考えなくてはいけない部分だろうというのが1つです。</p> <p>もう一つは、ハード面でどういうスケジュールなのかということと両方あると思います。</p>
委員	<p>いずれにしても、22年5月策定の「新泉・和泉地区小中一貫教育校設置計画」がもとになっているということですね。</p>
教育改革推進課長	<p>はい。</p>
会長	<p>この教育内容にかかわる基本的な考え方の4番の重点ですが、この地域の学校ではこれを外してはいけないということが何かほかにありますか。</p>
委員	<p>新泉小には特別支援教育がありますが、それに関する文言は一切これには載っていません。今後、小中一貫校になったときに、小学校には特別支援学級が入るが、中学校ではどうなるのか。特別支援学級のお母さんたちも、現状で新泉小にはあるので、そのまま入れていただけるのではないかと考えているようですが、中学校に上がったときにどうなるのかをとて心配している方が多くいるので、何か示していただけるといいと思います。また、それも1つの特色になるのではないかと思います。</p>
教育改革推進課長	<p>新泉小に特別支援学級がありますので、一貫校になっても引き続き設置したいと考えています。</p>
会長	<p>ほかにご意見がないようでしたら、小中一貫教育校の教育内容にかかわる基本的な考え方については、この案で決定させていただくということで</p>

	<p>よろしいでしょうか。(異議なし)</p> <p>それでは、この案で決定いたします。</p> <p>次に次第の2、設計事業者の選定について事務局からお願いします。</p>
教育改革推進課長	<p>前回、この一貫校の開校については、27年4月としておりますので、それに向けて基本設計を少し早めていきたいと説明させていただきました。</p> <p>区議会の定例会でこの補正予算が決定しましたので、これから先はこの基本設計を行う事業者を選定していく手順になります。事業者の選定方法ですが、これまで学校建築に関しては入札方式をとっておりましたが、今回は入札ではなくプロポーザル方式で事業者を選定していくこととします。</p> <p><資料について説明></p>
会長	ご質問等ございましたらお願いします。
委員	学童クラブは校舎内につくるのですか。
教育改革推進課長	敷地内に設置します。
委員	学童は狭くて定員もオーバーしている状況を踏まえてということですね。
教育改革推進課長	児童数等を見ながら学校の敷地内に設置する方向です。
委員	新泉学童クラブは移るので心配ないのですが、和泉児童館の学童はもうなくなってしまうのですか。
教育改革推進課長	和泉児童館は存続です。
委員	では、学童保育の受け入れ先が和泉児童館と学校内と2カ所になるということですか。
教育改革推進課長	その予定です。
委員	和泉児童館の学童クラブはなぜ残すのですか。
教育改革推進課長	児童数が多いので、今の児童館を廃止してしまうと入り切らなくなってしまう。また、学校の中に大きい学童クラブをつくと、敷地面積が決まっていますので、教室が不足してしまいます。
会長	荻窪小はどうなっているのですか。
校舎改築担当係長	荻窪小も需要は高まっていますし、今度改築する高井戸第二小は敷地内に学童クラブを設置する予定です。現在の社会情勢から、学童クラブの需要は非常に高いとご理解いただければと思います。
委員	<p>新田学園では、人数の割には校庭がそれほど広くなくて、放課後は中学生がクラブ活動するため、小学生は校庭で遊べないと伺いました。</p> <p>新泉小の学童は、子どもたちが完全下校後の4時から40分ぐらい校庭で伸び伸びと遊ばせていただいています。そういうこともとても大切なこ</p>

	とだと思うので、中学校と小学校の放課後のクラブ活動と放課後遊びの校庭の使い方もぜひ検討していただきたいと思います。
教育改革推進課長	今後またご意見をお伺いして、できるだけ皆さんの要望が取り入れられるような形にしていきたいと思います。
副会長	地域には、設置計画を説明したにもかかわらず、この間、それに載っている内容と微妙に違ってきているのですが、設置計画に載っている内容もプロポーザルの中に条件として入っていくのですか。
教育改革推進課長	設置計画に基づいて提案してもらいます。
副会長	学級規模等は設置計画にあるような提案をしてもらうということですか。
教育改革推進課長	規模については少し流動的なところもありますが、学校の教育活動に必要な教室などについては、こちらで示していこうと思っています。27学級と確定して提案を受けるものではありません。
委員	このプロポーザルで事業者がプレゼンを行うと思いますが、そのプレゼンなり提案なりを今度どういう方がどのように判断し、選定していくのでしょうか。
教育改革推進課長	建築の専門家と教育委員会の職員、また教育関係の専門家を入れて審査をしていくことになります。
委員	区内だけではなくもう少し広く専門家を集める予定ですか。
教育改革推進課長	その通りです。
委員	公開プレゼンテーションには、どの程度、どのような形で、投票か何かで意見が反映されるのでしょうか。
教育改革推進課長	かなり専門的な審査となりますので、どのような形で参加いただくかは検討しているところです。
会長	ほかにいかがですか。この計画で動いていくわけですから、わからないことは聞いておいたほうがいいと思います。
委員	和泉中を改修するということですが、小学校の新築の部分もあるとすると、その何年か後にまた和泉中に手を入れなくてはいけなくなる時期が時間差で出てくるのでしょうか。
校舎改築担当係長	もちろん出てきます。
会長	プロポーザルの場合、基本的な考え方に基づいて業者が提案してくるわけですが、それに縛られるというわけではないですね。
教育改革推進課長	提案してきたものに100%縛られるわけではありません。協議会の意見を踏まえて進めていくというのは条件の1つです。このプロポーザルは資質評価型といって、まずその事業者がきちんと学校建築ができるかどうかを見ていきます。

会長	そうすると、芝生のことなどは、意見を集約し、載せてもらえるということですね。それから、地域に開放できるようなシステムにしたほうがいいと私も思っていますので、地域の方が入りやすい、地域に開放しやすいような構造がいいと思います。もちろん子どもの教育にいいのは当然ですが、そのようなことも含めていただけるとありがたいと思います。
校舎改築担当係長	少なくとも一般競争入札よりは、会社の威信をかけて企画を出してくるので、それを基に議論いただく形になります。
会長	あくまでベースということですね。
教育改革担当部長	「座・高円寺」という芸術会館は、伊藤豊雄さんという世界的に有名な建築家の設計で、公募型プロポーザルで設計者を決定しました。プロポーザルは、ほとんど名前が売れていない方から著名人まで、いろいろな方が応募してくるので、いいアイデアが出ると思います。本当にいいものなのか評価して、安いだけでなく若干高くともいい業者を選ぶ。そういう一般競争ではない公募型プロポーザルという方式が、少しずつとられてきています。
委員	全て壊して新しくするのに超したことはないけれども、それはなかなかできないだろうし、まだ耐用年数があるものを壊したのではもったいないから、それをいかに有用に使うかということでわざわざこのプロポーザル方式にした。全くの白紙の上にぼんと建てるならこれはいい案がいろいろ出るだろうが、そうではなしにこういうものを使いながら、少し言葉は悪いが、つぎはぎみたいなことになるかもしれない。つぎはぎする中でも最もいいものをつくってほしいという理解でよろしいですか。
教育改革推進課長	その通りです。
委員	和泉中の校舎の中を見ると、別枠でできているものはなく、プールも屋上にあって壊せるものではありませんし、給食をつくる設備も校舎の中にあります。体育館ももちろん新しくしていただけるということでしょうか。
教育改革推進課長	基本的には新しくしたいと思っていますが、提案の中身次第です。
委員	私はこの和泉地区の震災救援所にも関係しています。前の校長のときに、校舎の建物のわきが陥没してしまって、和泉中とその周りにはかなりすき間が開いてしまいました。建物の土台はしっかりしているようですが、周りがへこんでいます。和泉小も防災倉庫の前は水が出ているからぼこぼこです。耐震、安全は何といても一番重要なことなので、きっちりお願いしたい。震災救援所に逃げてくる人たちのために安全対策を講じてほしいと思います。 この地域はかつて田んぼでしたから、地盤がかなりやわらかいところに土を埋めているわけです。あるいは、揺れると砂みみたいな形になって建物を壊してしまっても困るので、よく検討していただきたいと思います。

校舎改築担当係長	設計の中で、地質調査やボーリング調査を行い、地盤がやわらかければ 土壌改良や地盤改良を行いますので、ご心配いりません。
教育改革担当部長	この辺は確かに昭和20年代までは田んぼで、昭和30年代には畑にな って、前回の大雨のときは校庭が水浸しでウサギが死んでしまうなど、何 が起こるかわかりませんので、早目早目で計画を進めていきたいと思っ ています。和泉小の脇が地盤沈下していることは十分把握しています。
委員	それからもう一つ、設置計画では、特別支援学級の中学校の設置につい ては、周辺にある設置校との運営状況を考慮の上とありますが、やはりこ の地区の中学校にもそのようなお子さんがおいでになるということです ね。
教育改革担当部長	大宮中に特別支援学級があるので、通学区域をどのように割り振るかな ど、今後検討して決めていきたいと思います。
会長	それでは、設計事業者の選定については、これで終わりたいと思います。
委員	和泉小の全保護者にアンケートをとりましたので、その集計結果につい て簡単に説明させていただきます。
委員	3回の協議会を終えて、より多くの保護者の意見が必要と考えて、この ようなアンケートをとりました。 <資料説明>
委員	アンケートの結果、保護者が高い関心を持っていることがわかりました。 ただ、あまり伝わっていない部分もあるので、それが私たちの課題である と思っています。 新しくできる学校に期待することも多くの意見をいただきましたが、や はり一番心配で不安に思っているのは工事期間中のことのようにです。工事 期間中の安全面、騒音、学習環境などは関心が高いことがわかります。芝 生の校庭がどうなるのか、工事期間中は芝生が使えなくなるのか、なくな ってしまうのか、思い切り体を動かせる場所があるのかという運動面での 心配も多数寄せられています。 現在の5年生、6年生は新しい学校ができる前に中学校を卒業してしま います。工事期間中の子どもたちが損な思いをすることがないように、代替 校舎や運動できる場所の提供など、ご配慮願えればと思います。工事期間 中のマイナスイメージがプラスになるような情報を早く保護者にお伝えい ただき、保護者・子どもたちの不安を解消されることを願います。できれ ばこの内容を読んでいただき、少しでも取り入れていただければと思いま す。
校舎改築担当係長	本当に貴重なアンケートをありがとうございます。取り入れられる部分 はすべて今後に生かしていきたいと思います。 工事期間中については、影響は間違いなくあります。ただ、その影響を

	<p>最小限にどこまで食いとめていけるかということです。現在工事中の学校に対し、騒音や安全に対する苦情は、学校の皆様からはいただけていません。子どもたちは、プレハブ校舎や一部残した校舎など、いろいろなところで勉強している中で、工事の音がうるさい、安全面で不安がある、という声は、基本的には寄せられていません。業者にきちんと指導をして、その成果を上げていると思います。</p> <p>ところが近隣の皆様からは、いろいろな苦情を毎日のようにいただいています。それについてはすぐ対応し、少しでも軽減できるよう対応しています。工事期間中の解体の音などは、昔のようにドンドン音がするというよりも、今は水をかけながら砕いていくので、音やほこりなどは非常に低減されています。周辺は全部仮囲いをしますから、そういったご心配は不要だと思います。</p> <p>設計が終わって、工事を行う段階で工事説明会を開かせていただきます。その中でいろいろな方のご要望をいただき、子供たちが通る時間帯についてはトラックの運搬あるいはその道は通さないようにするなど、どこからトラックを入れるか、どの時間帯は通行止めにするかなど、細かい部分まで調査しながら調整を図っていきます。</p> <p>アンケートに、工事が楽しくなるような工夫を、とありますが、天沼小では、子どもたちの絵を仮囲いに一枚一枚張りました。おそらく学校から課題を出して、それに対して子どもたちが非常にうまい絵を書いてくれました。それを万能鋼板という仮囲いに全部張ったら、道行く人たちから非常に評判がよかったので、そのような工夫は今後できると思います。</p> <p>いずれにしても具体的に決まった時点、またその前にも何度か説明の機会を持たせていただき、ご理解をいただきながら、工事の安全も図って進めさせていただければと思いますので、よろしくお願いたします。</p>
会長	工事や学校の仮校舎、移転のことについて議題に上がるのはプロポーザルの業者が決まってからになりますか。
教育改革推進課長	設計に入ってからです。
会長	例えば期間は設計によりますね。
教育改革推進課長	その通りです。
会長	和泉中に関しては、新築と遜色がないような改修をしていただかないと、意味が薄れてしまうのではないかと思います。
委員	建物の中の振り分けは、この設計が決まってからですか。アンケートの中にも、小学校と中学校が合同である必要はないという意見が出ているように、やはりそこにまだ小学校のお母さんたちの多くの方が、必要はないと思っていると考えます。業者が決まって、建物の中に関してはこの後で協議されていくということですね。

教育改革推進課長	提案としては、入ってくるかもしれません。
委員	新田小を見学したときに、中途半端にということですが、中学校が1学年ずつ小学校とまざっているような形で、小中学生が同じ廊下にいることに私は違和感を覚えました。そういう細かいことは後々決めていくということですね。
統括指導主事	小中学生の日常的な交流が本当にいいのか、安全面や施設の共有の面でも課題があるので、これから吟味していかなければならないと思います。 ただ例えば、ここは中学校用の教室と明らかにしてしまうと、学級数が変動したときに融通がきかなくなりますので、万が一、小学生が増えて中学生が減ったときは転用できるようにするなど、今後考えていければと思います。
委員	和泉中は改修のみですね。そうすると、その和泉中の改修した部分に小学生が入ることもあるのですか。
校舎改築担当係長	全く壊せない構造上の壁や柱などもありますので、その制約の中でさまざまなプランニングが出てくると思います。
委員	和泉小ですばらしいアンケートをつくってくださってありがとうございます。まとめるのは大変だったのではないかと思います。新泉小や和泉中ではこういったアンケートをやる予定はないですか。
委員	新泉小ではこの協議会が終わって何回かまとめた後に報告会を行っています。前回11月に報告会をやりましたが、同じような意見が多くあがっていました。下の学年の方からの意見も聞いてみたいし、一番かかわる方たちがもう少し興味を持って、意見を出してくれるよう、学校公開などと重ね合わせて、校長先生からお話しただいて、報告会という形でいろいろな意見を吸い上げるようにしています。
委員	中学校では、アンケートをとってもほとんど関係ない状況です。
委員	和泉中は在校生が卒業してから工事が始まるので、今回はとっていませんが、一般的な意見を聞くのは必要かと思しますので、下の学年の方たちに動いてもらいたいと思います。
委員	アンケートがいいというのではなくて、せっかく意見を吸い上げるなら、3校が一緒になるわけですから、それぞれの学校からの意見を吸い上げたという形をとらないとまずいと思います。 100人いれば100通りの要望があるのも当前ですが、やはり3校の保護者、地域の間が何を一番不安に感じて、どこが一番期待するかという全体の意見をある程度吸い上げないと、なかなか難しいのではないかと思います。
委員	もしかしたら和泉中は枠だけ残して中は改装するかもしれないのです

	か。
校舎改築担当係長	2年間という枠組みの中で改修工事を行いたいと考えています。
委員	プロポーザルでは、和泉中の校舎は残す形で募集をするのですか。
校舎改築担当係長	その通りです。
委員	和泉中は確かに耐震上の問題はないかもしれませんが、中はどう見てもきれいとは言えません。
校舎改築担当係長	既存和泉中校舎を改修し、新校舎に接続します。
委員	和泉中は体育館もプールもあるので、それを残すのも疑問に思います。例えば、小体育館として中学校の体育館を残してもらえたらと思います。
校舎改築担当係長	プロポーザルの提案内容にもよります。今後業者が決まった段階で、細かく調査に入っていきます。
由井会長	和泉中は枠だけ残してかなり変えてもらわないと、新しい学校ができたという感じにはならないと思います。
委員	オープンスペースと教室の構成を何とか変えないと暗いし、光が入らない。
会長	<p>校庭側に校舎が建ったら本当に日が入らなくなりますから、それは考えていただきたい。</p> <p>もう一つ、生涯学習の1つの拠点として地域の方にたくさん使っていただけるように、柔軟に考えていただいて、いろいろ転用できるように、昼は子どもたちが使うけれども、夜などはもっといろいろなものに使えるような視点を入れてほしいと思います。それは初めからある程度入れないと考えられないのではないかと思います。</p>
委員	<p>この会では、新しい学校に関する話し合いがほとんどでした。母校がなくなるという感傷的な話ではなく、実際に新泉小が、特に和泉1丁目、4丁目地区で果たしていた役割は非常に大きい。そこがなくなることについての手当てをどのように考えていますか。</p> <p>新泉小の震災救援所は組織ができ上がっています。特に、地域の学校がなくなるくらい子どもが減っているということは、相対的に老人が多い地区ということです。そして、地域の住民は何かあれば新泉小に行けばとりあえず助かるんだという認識を持っています。ここがなくなると、震災救援所はどうなるのでしょうか。新泉小が27年の4月1日からなくなった後、大規模震災が起こったときに地域の住民はどこに行ったらいいのかということは、恐らく数年かけて準備しなければ、急にはできないと思います。</p>
校舎改築担当係長	杉五小・若杉小は統合して、新たな天沼小に震災救援所を設け、距離的な問題はありますが、基本的には天沼小が震災救援所になり、地域の方は集まってくださいという指定をしました。それは永福小・永福南小もこの

	和泉地区も同じです。新泉小の震災救援所の機能をどうするかについては、跡地活用の問題もありますので、跡地が何になるのかも踏まえて、いろいろなことをトータルで考えながら決めなければなりません。この場では答えられないということでご理解をいただければと思います。
委員	<p>防災課は小中一貫校のことあまり承知していないけれども、十分配慮しますとは言っています。ですから、この計画の中に27年4月1日開校にあわせて、少なくとも1～2年前からこの地区の防災計画がどうなるかをどこかで考えなくてはいけないと思います。</p> <p>設置協議会とは関係ないので、ここで話をしてもしょうがないということですか。</p>
教育改革担当部長	認識としては、校舎改築担当係長が言ったように、前例の天沼小を倣うことになります。
委員	2つの震災計画が1つになってもうまくは行っていません。
教育改革担当部長	時間がかかることですので、防災課と協力しながら教育委員会もやっていきます。
委員	<p>地元の者からすると、今ここで大規模震災が起こったら会長も教育委員会も、おそらく自分のところで手いっぱい、この震災救援所までは来ないと思います。ということは、私たちが自分たちで地域の高齢者あるいは子どもたちを見なければいけない。区役所からは離れた地域ですから、そのことを住民が危惧していることをご承知いただくことと、防災課にはこちらからも繰り返しアピールしますが、機会がありましたらお伝えいただければと思います。</p>
会長	ほかにはよろしいでしょうか。
委員	若杉小の跡地利用はこれから話をされますね。
教育改革担当部長	その通りです。懇談会から報告書は出されましたが、区長が代わってこれから基本方針を定めますので、暫定的な状況です。
委員	山田区長は子どものために必ず残すと言われたのですが、区長が代われればそれは撤回されて、新たな方向になるのですか。
教育改革担当部長	待機児童の課題があるので、暫定的な保育園を23年度からつくる予定ですが、どのようにするかはこれからの議論になります。
委員	小中一貫校になった後に具体的な動きになるのですか。
教育改革担当部長	できるだけ早く、目に見えてどのようなようになるのかわかるように進めていきたいと思っています。
委員	震災救援所も、校長・副校長がいなければできないものではなくて、新泉小の跡地で、救援活動が地域の町会が力を合わせてできればと思います。同じ和泉中校区ですが、私たちが住んでいるところからはあまりにも遠い

	<p>ので、所轄は違うと思いますが、ぜひご検討ください。</p>
委員	<p>小中一貫校とは地域で育てる学校という意味ですから、行政の縦割りの壁もあるでしょうが、防災の話などは考えなくてはなりません。</p> <p>では、どう考えるか。この地区で育てる小中一貫校とはどんな学校のことを言っているのかといいますと、具体的なことよりも考え方としては、やはりこの学校、この地域の子どもを育てることが1つです。</p> <p>それからもう一つは、その子どもが育つためにここの環境を育てることが大きな柱だと思います。子どもを育てるといっても、環境が整っていないと無理です。</p> <p>育てるといのは2つあると思います。子どもを育てる。それから、その子どもが育つためにその地域を育てる。それには生活圏としての防災の問題も当然含んでいます。</p> <p>小中学生たちは学校で人生を終えるわけではなく、その長い人生の中の基礎をここで学びます。それは社会に役立つ人間として、生涯学習をするための基礎を学びます。これは知育であり徳育であり体育だろうと思います。しかし、これが育つためにはこの教育環境がしっかりしていなくてはなりません。地域というものはそこにあれば黙って使えるものではありません。その目的にきちんと育てなければ環境も育たない。人を育てることと環境を育てること、これがこの協議会の大きな哲学だと思います。</p>
委員	<p>4番目の地域貢献という部分に重なるのではないのでしょうか。検討の余地はあるでしょうが、もともと分かれていたものを1つにすることは、今まで以上に校区が広がる分、その中の活動に対しては、みんなが協力しよう、集まっていこう、という姿勢がないと難しくなると思います。</p>
会長	<p>それでは、第4回新泉・和泉地区小中一貫教育校設置協議会を閉会します。</p>